

献呈の辞

杉本稔先生は、本年一〇月一二日、ご壮健のうちにくれでたく古稀を迎えられます。

先生の古稀を心からお祝いするとともに、同学の士ならびに先生の学恩に浴しその重厚な学風を慕う者たちが相集いて執筆し編纂致しました記念論文集『政治史と社会科学をめぐる諸問題』を、ここに謹んで献呈させていただきます。

杉本稔先生は、一九六五年四月に日本大学法学部政治経済学科に入学され、学部生時代にはゼミナールの恩師・齋藤敏先生のご指導の下、政治学とりわけハロルド・ラスキの政治理論に関心を持たれました。六九年三月に日本大学法学部政治経済学科を卒業され、明治学院大学教務部にご勤務の後、七四年四月には日本大学大学院法学研究科修士課程政治学専攻に進学されました。大学院進学前は、お仕事の傍ら河合栄次郎などの著作を通じてイギリス理想主義哲学にも親しまれ、学識をさらに高める日々を過ごされました。大学院生時代に出会ったヘンリー・ペリングの著作に学問的衝撃を受けられた先生は、大学院での研究テーマをイギリス労働党成立史、イギリス労働党の形成・組織化過程とされ、それ以降今日に至るまで、イギリス労働党を中心としたイギリス政党政治史の研究を続けておられます。七六年三月に大学院同専攻課程を修了された先生は、本学法学部副手、同助手を務められ、八四年四月に法学部専任講師、八八年四月には同助教授に昇格されました。この時期の先生は、イギリス労働党史研究の深奥を極めるため、フェビアン協会のウェッジ夫妻とも縁の深いロンドン大学政治経済学院(LSE)に、法学部国外研究員として九三

年から一年間、留学されています。そして、九八年四月に本学法学部教授となられ、現在に至るまで、研究活動はもとより、本学部生ならびに大学院生の教育面でも多大な貢献を果たされました。先生の薫陶を受けた愛弟子をはじめ教え子たちは、第一線の研究者あるいは社会人として、実社会で幅広く活躍しております。

このように、先生は、ご専門の西洋政治史の研究ならびに政治学を中心とした教育活動を精力的に進められる一方、本学部の研究担当、キャンパス整備委員長などの役職を歴任されました。とりわけ現在の法学部図書館(日本大学図書館分館)の竣工につきましては、まさに先生のご尽力の賜物であります。

そして、二〇〇九年から一五年までの二期にわたり、先生は日本大学法学部長・大学院法学研究科長として本学部の発展に大きく貢献されるとともに、学校法人日本大学理事、評議員、さらには日本大学副学長(研究、産官学連携知財センター担当)として、法学部のみならず日本大学全体の運営ならびに大学行政においても重責を担われました。先生の学部長在任中、東日本大震災という未曾有の災害が発生しましたが、学部長として、そして一人の教職員(日大人)として先生は、学部教職員の先頭に立ってリーダーシップを発揮され、震災直後のさまざまな問題を見事に処理しておられました。

先生は、学会ならびに社会活動においても、日本政治学会理事をはじめ日本選挙学会理事、あるいは独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員などを中心に、幅広く活躍してこられました。その大きな足跡は、後進にとりましても偉大なる指針となっております。

学部ならびに大学院で主に「西洋政治史」関連の講座を担当された先生の学問的ご関心の焦点はイギリス労働党史であり、なかでも初期労働党史におけるジェームズ・ケア・ハーデイの果たした役割や労働同盟の位置づけに関する

ご研究は、学界のみならず社会一般においても高い評価を受けております。その学問的成果はご高著『イギリス労働党史研究——労働同盟の形成と展開』として九九年に刊行されました。また、周知のように、「政治学」関連のテキストや副教材なども数多く執筆されており、二部や通信教育部をはじめとする社会人学生教育にも大変熱心に取り組んでこられたことは言うまでもありません。

このように先生は、大学人として「教育・研究・学内行政（運営）」の三領域いずれにおいても非常に素晴らしい足跡を残されており、その意味ではまさに大学人の理想像と言っても過言ではないでしょう。

他方で学生や後進に接する普段の先生は、学問的厳しさの中にも人間としての優しさと温かさ、誠実さを備えておられます。例えばゼミナール生との宴席などにおいては「節度ある無礼講」をモットーにされていると伺っておりますが、これも学生や院生は勿論、同僚の教職員からも慕われ尊敬されている先生のお人柄を表すエピソードと言えるかもしれません。

先生のさらなるご健康をお祈り申し上げますとともに、先生には学問的なご指導も含め、今後ともさまざまな面でご指導を賜りますよう心から願っております。

この論文集には、政治史・政治学をはじめとする社会科学の多様なアプローチが展開されており、わが国の学界全体に対する貢献が充分果たされたものと確信致します。ご寄稿頂いた先生方にあらためて御礼を申し上げますとともに、刊行に向けてご協力を頂きました日本大学法学部研究事務課職員の方々にも厚く御礼申し上げます。

杉本稔先生には、今後とも益々お元気で多方面において活躍され、私どもに更なる範を示して下さいますことを切に願いつつ、献呈の辞とさせて頂きます。

平成二八年一〇月吉日

日本大学法学部長
池村正道